



資料6

## 「乳幼児栄養調査企画・評価研究会 第1回研究会」

2014年8月8日 15:00～17:00, 厚生労働省

# 子どもにおける 健康・食生活の貧困

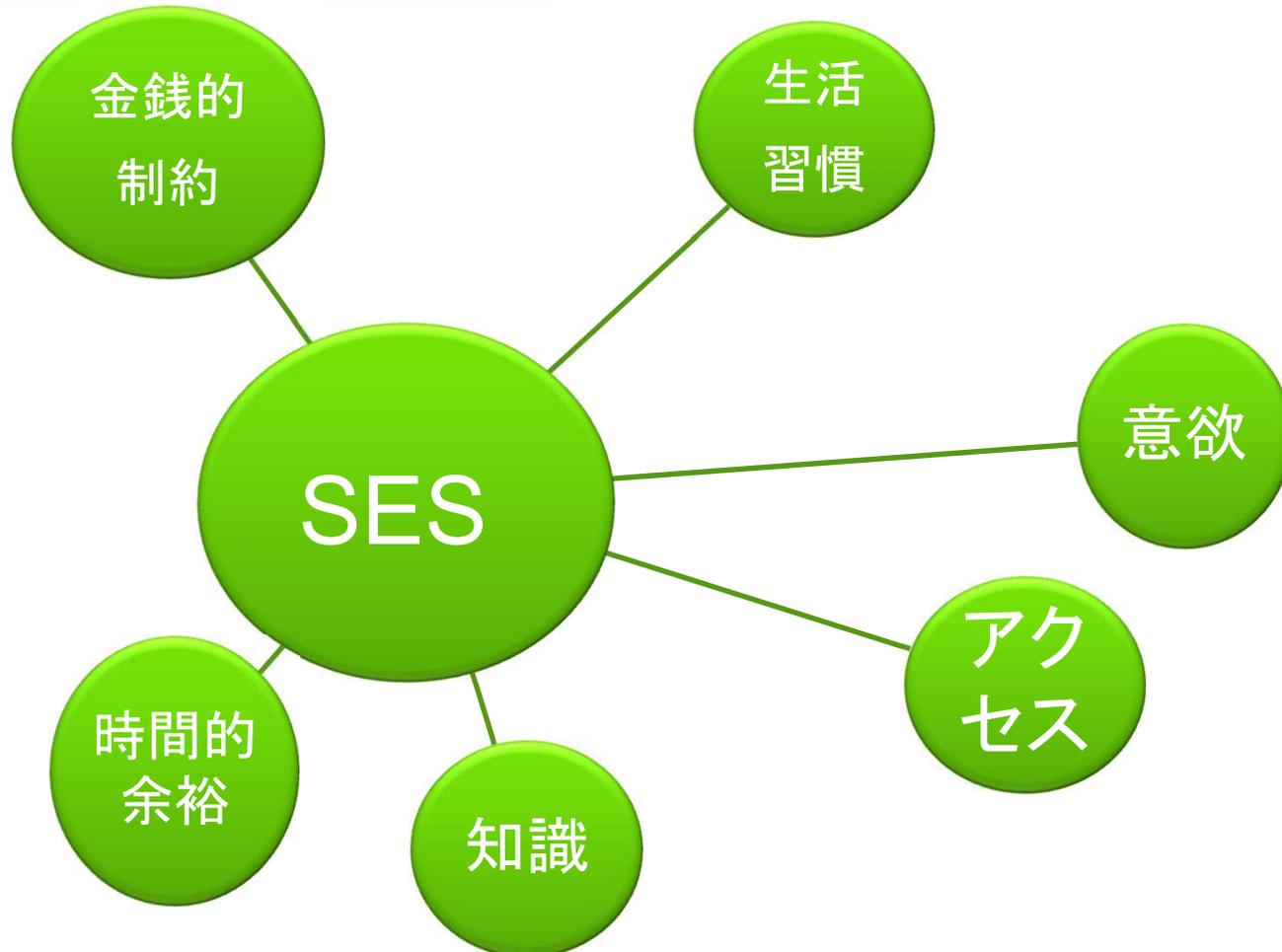


阿部 彩

(国立社会保障・人口問題研究所)

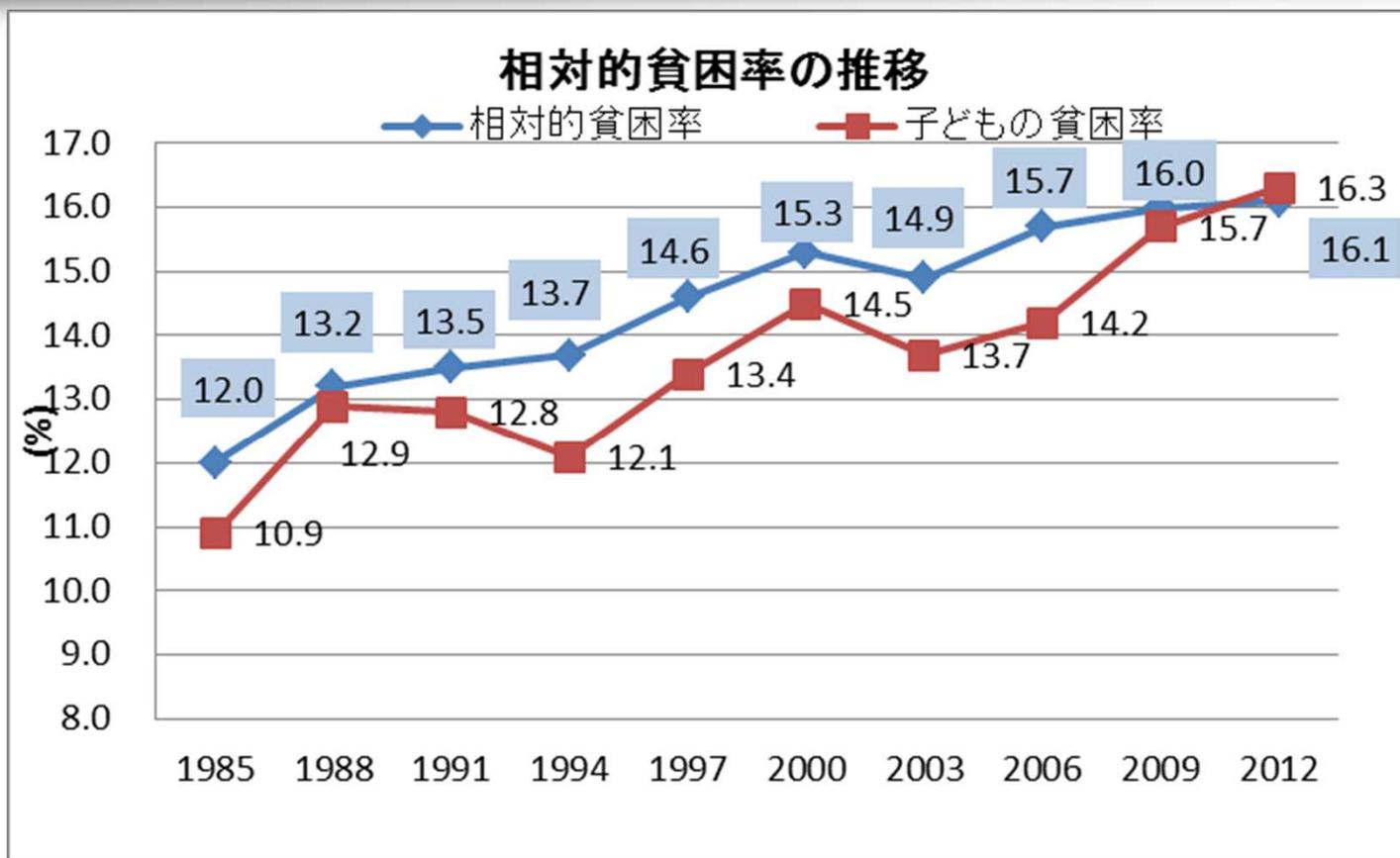
※本報告の内容は報告者個人の見解であり、報告者の属するいかなる組織の公式な見解を示すものではありません。

# 社会経済階層 (Social Economic Status: SES) と食の関係



個人、個人の背景としてあるSESの影響を見逃してはいけない！

# 日本の貧困率の推移



- 最新値(2012年値、発表2014年7月)では、初めて子どもの貧困率が社会全体の貧困率を上回る
- 子どもの6人に1人が相対的貧困

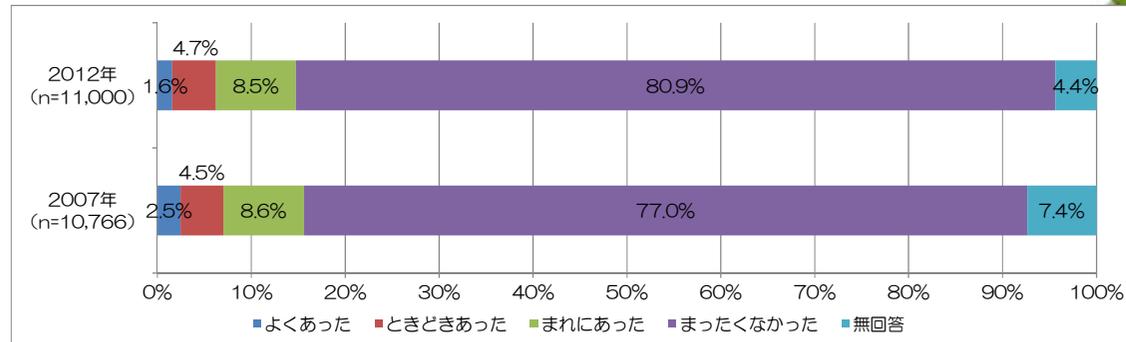
出所:厚生労働省(2011)

『平成25年国民生活基礎調査結果の概況』

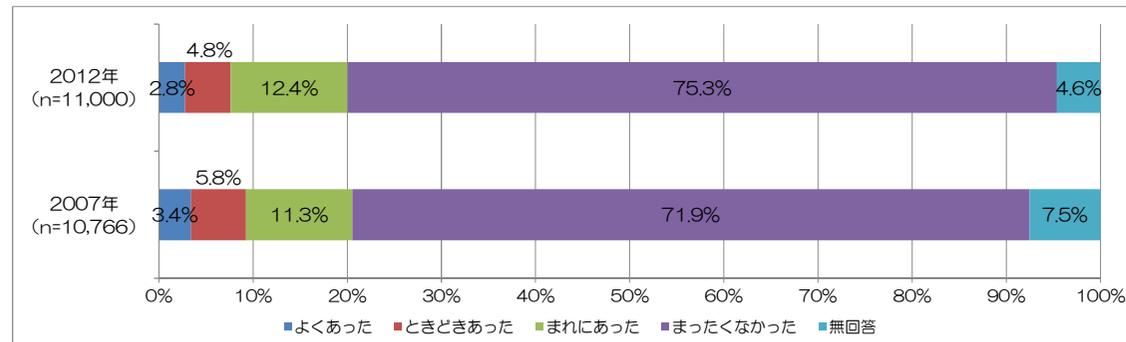
# 家族に必要な「食料」が買えなかった経験 (過去1年間)



## 食料の困窮



## 衣服の困窮



衣食住といった基礎的なニーズが満たされていない世帯は15-20%。  
所得階級が高いほど、剥奪の割合は少ない。

# 食料が買えなかった経験：世帯類型別



世帯タイプ	総数	よくあった(%)	ときどきあった(%)	まれにあった(%)	まったくなかった(%)	無回答(%)
総数	11,000	1.6	4.7	8.5	80.9	4.4
子どもがない世帯						
単独世帯						
単独高齢男性	289	2.1	6.9	9.7	69.6	11.8
単独高齢女性	740	0.8	3.9	6.2	81.9	7.2
単独非高齢男性	940	2.9	6.8	8.8	75.0	6.5
単独非高齢女性	560	1.8	5.5	9.5	78.6	4.6
夫婦のみ世帯						
夫婦ともに高齢者	1,178	0.9	3.5	7.6	84.6	3.4
夫婦の一方が高齢者	331	0.9	3.9	7.6	84.9	2.7
夫婦ともに非高齢者	1,033	1.5	3.0	4.5	87.0	4.0
その他世帯						
高齢者のみ世帯	89	0.0	2.2	5.6	86.5	5.6
高齢者以外も含む世帯	2,799	1.4	4.1	8.9	79.8	5.8
子どもがある世帯						
二親世帯（三世代）	415	0.7	4.8	9.2	84.3	1.0
二親世帯（二世帯）	2,059	1.5	4.7	9.9	83.5	0.4
ひとり親世帯（三世代）	142	3.5	9.9	7.7	78.9	0.0
ひとり親世帯（二世帯）	234	3.8	10.7	17.5	67.5	0.4

注) 世帯タイプが不詳の世帯を除く。

「過去1年の間に金銭的な理由で家族が必要とする食料が買えなかったことがありますか」に対する回答（2012年調査）

出所：国立社会保障・人口問題研究所(2013)  
「2012年生活と支え合い調査の概況」

# 子どものある世帯の家計は苦しい： 公共料金の未払いや債務の滞納



世帯タイプ	総数	電気(%)	ガス(%)	電話(%)	家賃(%)	住宅ローン(%)	その他債務(%)
総数	11,000	4.8	4.7	5.0	6.6	4.6	8.9
子どもがない世帯							
単独世帯							
単独高齢男性	289	5.4	4.6	5.8	6.9	4.8	10.6
単独高齢女性	740	2.6	2.0	3.0	4.8	1.7	3.6
単独非高齢男性	940	8.7	8.9	10.2	8.3	4.8	15.2
単独非高齢女性	560	5.8	4.8	6.0	6.5	2.6	9.8
夫婦のみ世帯							
夫婦ともに高齢者	1,178	1.5	1.4	1.4	4.3	4.2	3.5
夫婦の一方が高齢者	331	2.2	2.4	1.0	10.0	4.0	7.6
夫婦ともに非高齢者	1,033	3.6	3.5	3.6	4.2	4.0	5.5
その他世帯							
高齢者のみ世帯	89	2.4	0.0	3.9	0.0	0.0	6.9
高齢者以外も含む世帯	2,799	4.6	4.4	4.3	6.6	5.4	9.7
子どもがある世帯							
二親世帯（三世代）	415	4.0	4.0	5.2	0.0	7.9	10.0
二親世帯（二世代）	2,059	5.3	5.4	5.5	6.4	3.5	8.0
ひとり親世帯（三世代）	142	11.3	10.7	10.9	3.7	24.4	20.7
ひとり親世帯（二世代）	234	14.1	16.2	15.3	13.4	8.1	18.5

注) 「あった」とした世帯数 / (非該当と無回答を除く全世帯数)

- とくにひとり親世帯は、すべての支払いについて(住宅ローンを除く)金銭的なストレスが大きい
- ふた親世帯においても、約4-6%の世帯がさまざまな支払い困難、約10-13%は債務の滞納経験がある

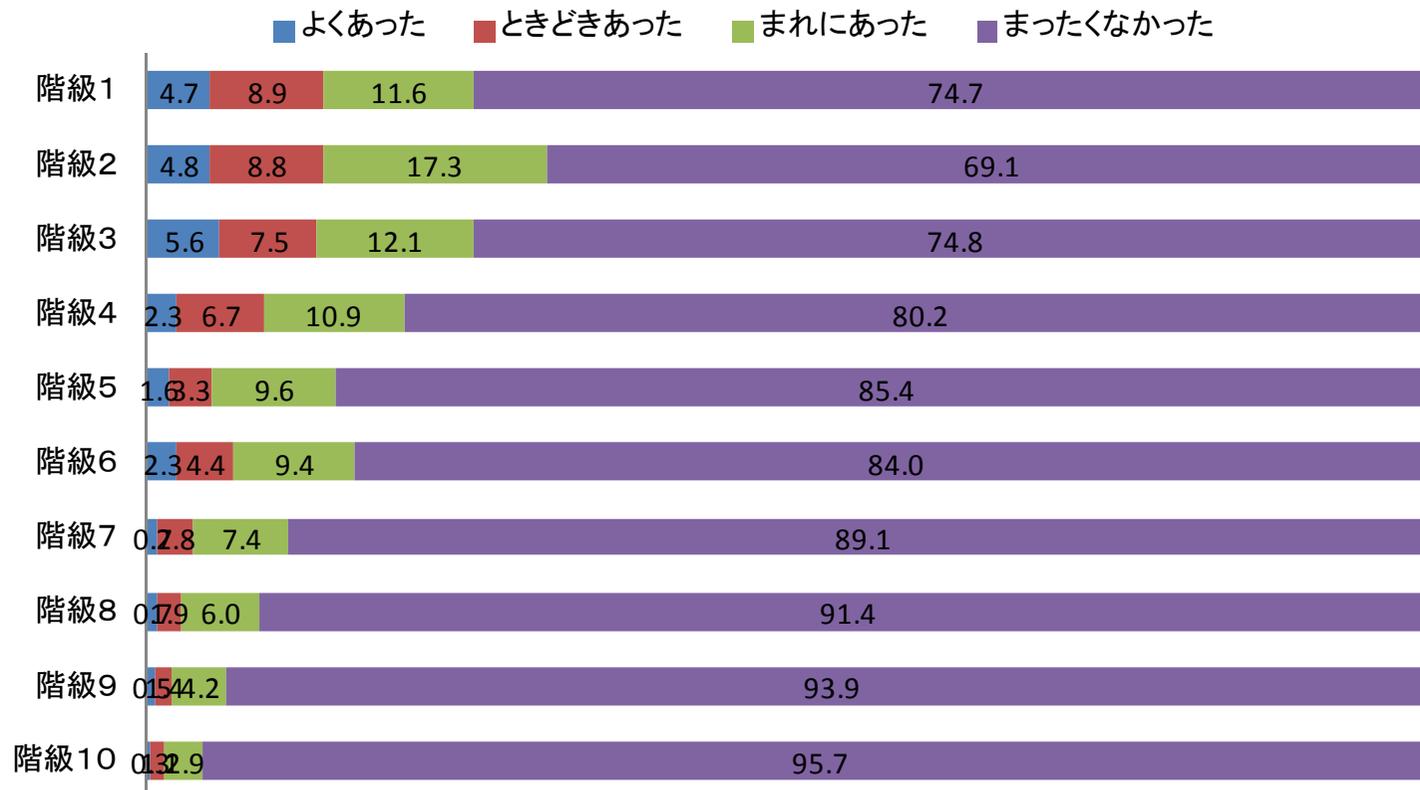
**食費は、家計の中でもっとも「圧迫」やすい費目！**

出所：国立社会保障・人口問題研究所(2013)  
「2012年生活と支え合い調査の概況」

# 食料が買えなかった経験：所得階級別



過去1年間に家族が必要とする食料が買えなかった経験：  
所得階級別



出所：国立社会保障・人口問題研究所(2013)  
「2012年生活と支え合い調査の概況」

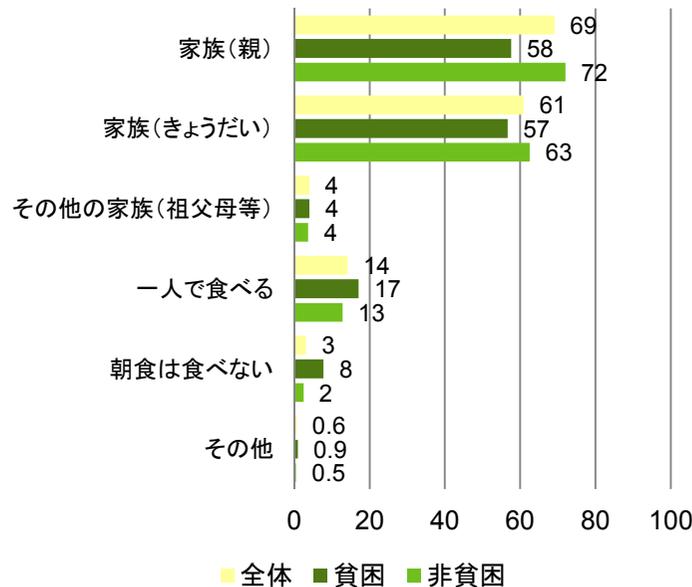
# 大阪子ども調査(2012年実施)

大阪市の公立小中学生 小学5年、中学2年対象それぞれ約3200名



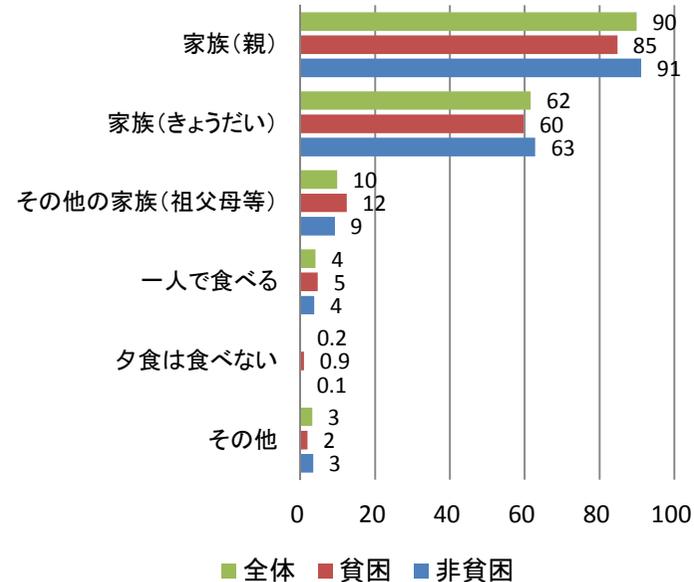
## 朝食(平日)

図6-1 誰と食べるか:平日朝食(複数回答)  
小学5年生(%)



## 夕食(平日)

図6-2 誰と食べるか:平日夕食(複数回答)  
小学5年生(%)



( $\chi^2=28.28$  41.7 0.10 4.41 26.61 1.18  $p<.0001$  0.04 0.75 0.04  $<.0001$  0.28)

( $\chi^2=13.20$  1.12 3.31 0.66 8.22 2.22  $p=0.0003$  0.29 0.07 0.41 0.004 0.14)

朝食(平日)の欠食が貧困層で多い(8% vs. 2%)ほか、平日、親と一緒に食べる子どもが少ない(58%)。夕食でも6%の差。夕食の孤食は差なし。

出所:阿部彩・埋橋孝文・矢野裕俊(2013)「大阪子ども調査結果の概況」  
文部科学省科学研究費補助金「貧困に対する子どものコンピテンシーをはぐくむ福祉・教育プログラム開発」  
(研究代表者:埋橋孝文 同志社大学教授)

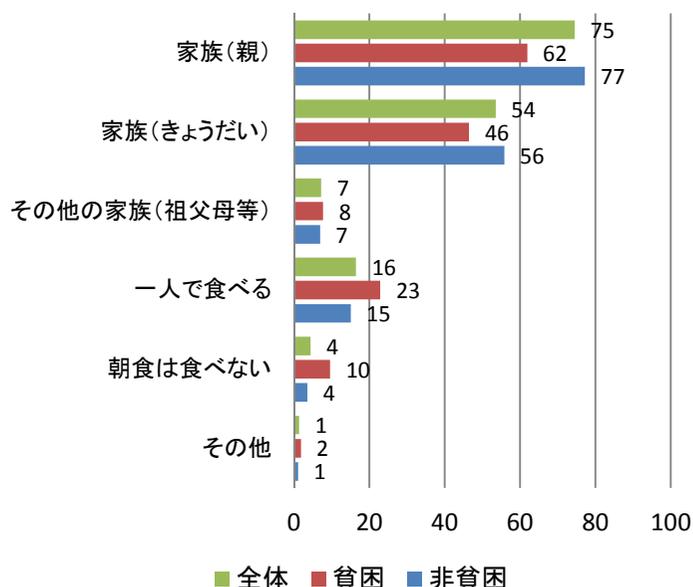
# 大阪子ども調査(2012年実施)

大阪市の公立小中学生 小学5年、中学2年対象それぞれ約3200名



## 朝食(休日)

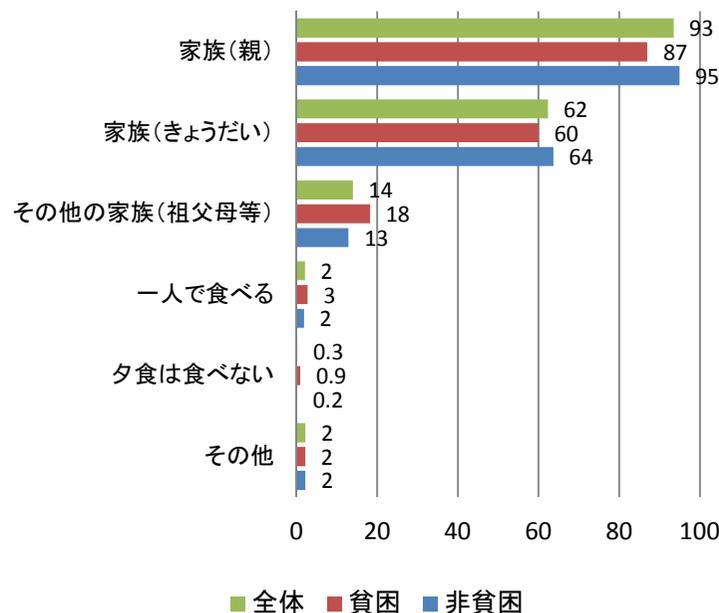
図6-3 誰と食べるか:休日朝食(複数回答)  
小学5年生(%)



( $\chi^2=35.72$  10.11 0.29 12.97 25.43 1.40  $p=<.0001$  0.0015 0.59 0.0003  $<.0001$  0.24)

## 夕食(休日)

図6-4 誰と食べるか:休日夕食(複数回答)  
小学5年生(%)



( $\chi^2=31.64$  1.60 6.92 1.27 6.33 0.007  $p=<.0001$  0.21 0.009 0.26 0.012 0.94)

朝食(休日)の欠食は、平日よりも多い(貧困層10% vs. 2%)。

出所:阿部彩・埋橋孝文・矢野裕俊(2013)「大阪子ども調査結果の概況」

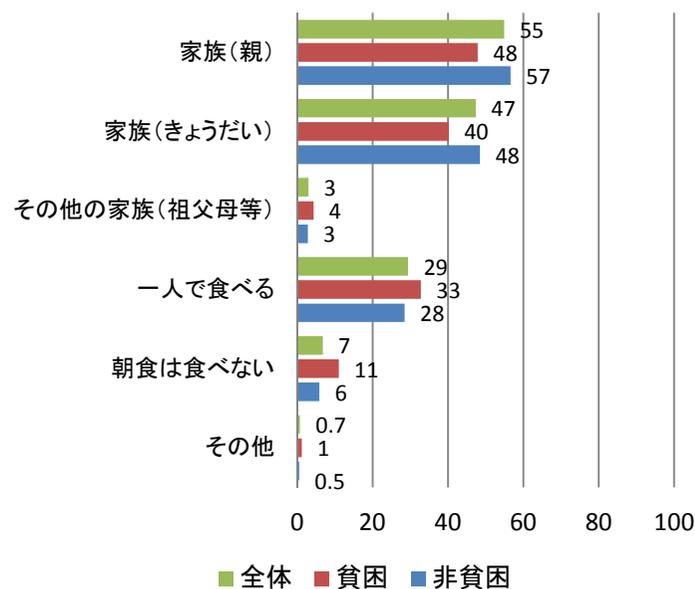
文部科学省科学研究費補助金「貧困に対する子どものコンピテンシーをはぐくむ福祉・教育プログラム開発」  
(研究代表者:埋橋孝文 同志社大学教授)

# 中学生（平日）：孤食と欠食



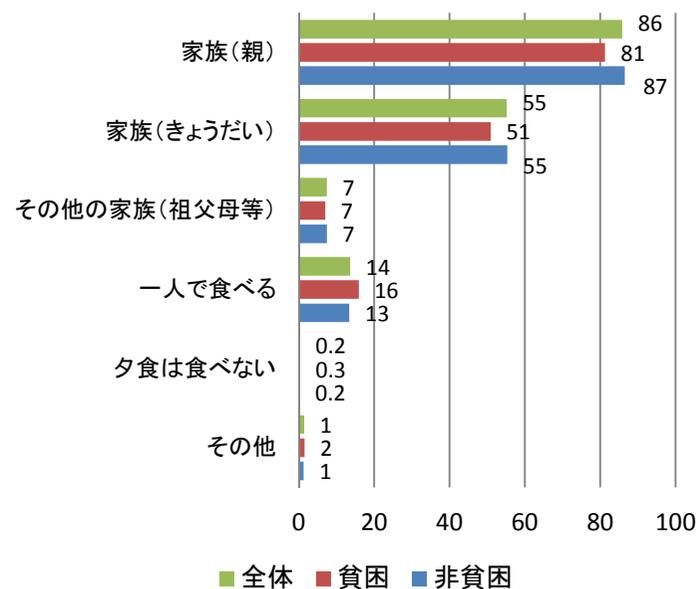
## 朝食（平日）

図6-5 誰と食べるか：平日朝食（複数回答）  
中学2年生（%）



## 夕食（平日）

図6-6 誰と食べるか：平日夕食（複数回答）  
中学2年生（%）



( $\chi^2=8.76$  7.7 2.03 2.58 12.29 2.71 p=0.003 0.006 0.154 0.108 0.0005 0.1) ( $\chi^2=6.37$  2.25 0.07 1.52 0.18 0.12 p=0.012 0.134 0.8 0.22 0.67 0.73)

小学生と同じく、朝食（平日）の欠食が貧困層が多い(11% vs. 6%)ほか、平日、親と一緒に食べる子どもが少ない(48%)。夕食では、非貧困層でも1割以上が親と一緒に食べておらず、貧困層では2割近い。夕食の孤食は差がなく、13~16%。

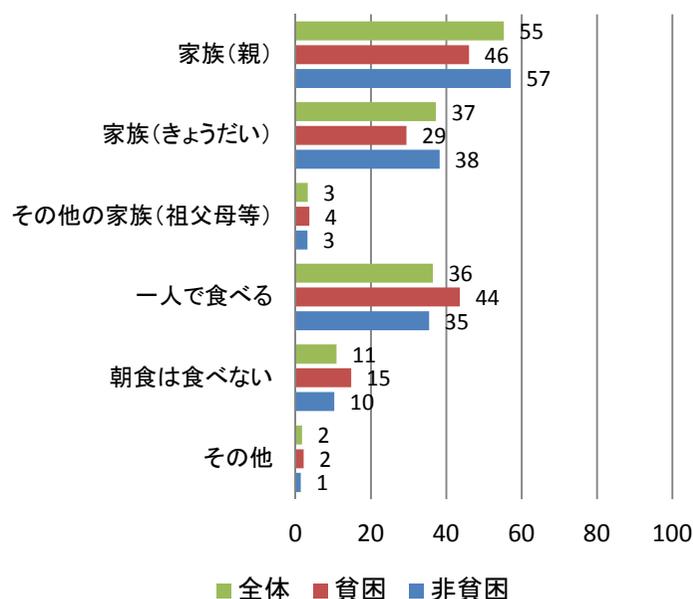
出所：阿部彩・埋橋孝文・矢野裕俊(2013)「大阪子ども調査結果の概況」  
文部科学省科学研究費補助金「貧困に対する子どものコンピテンシーをはぐくむ福祉・教育プログラム開発」  
(研究代表者：埋橋孝文 同志社大学教授)

# 中学生（休日）：孤食と欠食



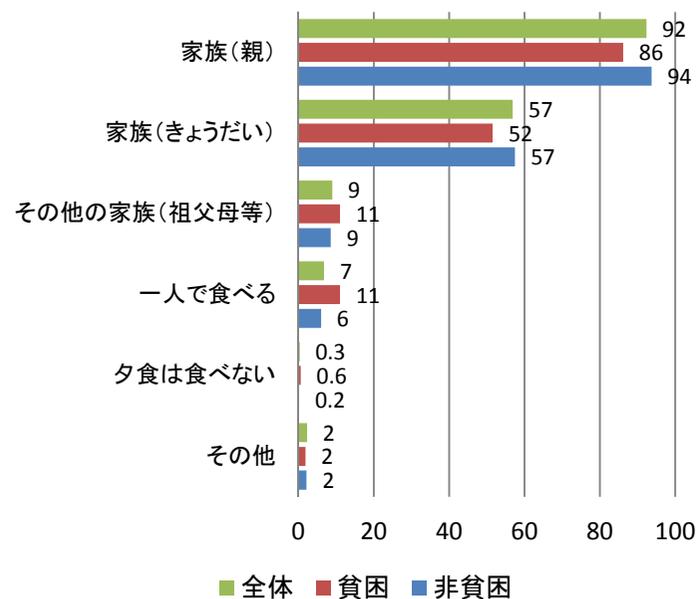
## 朝食(休日)

図6-7 誰と食べるか:休日朝食(複数回答)  
中学2年生(%)



## 夕食(休日)

図6-8 誰と食べるか:休日夕食(複数回答)  
中学2年生(%)



( $\chi^2=14.15$  9.24 0.23 8.09 5.7 1.08  $p=0.0002$  0.002 0.63 0.005 0.017 0.3) ( $\chi^2=23.81$  4.06 2.05 11.42 2.01 0.14  $p=<.0001$  0.04 0.15 0.0007 0.16 0.71)

中学生の36%が朝食(休日)を一人で食べる(貧困層44% vs. 非貧困層35%)。

11%は、欠食(貧困層15%、非貧困層10%)。夕食も貧困層では孤食が11%。

出所:阿部彩・埋橋孝文・矢野裕俊(2013)「大阪子ども調査結果の概況」

文部科学省科学研究費補助金「貧困に対する子どものコンピテンシーをはぐくむ福祉・教育プログラム開発」

(研究代表者:埋橋孝文 同志社大学教授)

# 貧困と身体的発育の関係： 7歳時点での身長・体重：貧困年数別



第7回	全サンプル					
貧困経験年数	n	身長 (0.1cm)	n	体重(100g)	n	肥満率
なし	20979	119.215	21340	22.066	20890	5.21%
1回	3305	119.265	3392	22.158	3281	6.37%
2回	1234	119.027	1269	22.166	1227	6.66%
3回	698	119.007	728	21.981	694	6.20%
4回	426	118.597	437	22.008	425	7.29%
5回	340	119.321	352	22.384	339	8.55%
総数	26982		27518		26856	

貧困経験年数(7歳までの時点で世帯所得が貧困線以下であった年数)が多いほど、肥満率が高い

## 子どもの貧困指標としての「食」



- EUにおいては、相対的貧困率に加えて、相対的(物質的)剥奪指標を公式な貧困指標として設定しており、削減目標を設置している。
- 子どもの剥奪指標(18項目からなる)のうち、「食」に関する項目は2項目:
  - 新鮮なフルーツか野菜を毎日食べること
  - 肉、鶏肉、魚を毎日食べること(「一日3食」は、統計的な妥当性に欠けたため削除された)
- 日本の子どもの貧困指標となるものはあるか。
  - 課題:
    - 学校を介した子ども調査が元データである場合が多く、乳幼児(就学前)や学校後(高校中退、中卒含め)のデータが欠落している
    - 「食」の「質」の問題に、対応できていない(簡単な解決策はない?)



**食は、生活の基本。  
子どもの食の貧困の解消に向けて、  
どのような政策が有効か、  
学術的なインプットが必要。**



ご静聴ありがとうございました。